

平成25年度事業報告

事業名 ① みんなのまちづくり情報発信事業

事業の概要・経緯

【事業概要】

区民のまちづくりへの関心を高めるため、各校区の魅力・まちづくり活動・まちづくりに携わる人等を取り上げた情報誌「中央区つながるマガジン“まちのわ”」を製作・配置。平成25年度は、中央区の小学校区19校区のまちづくりを紹介し、校区やまちづくりを身近に感じてもらう内容とした。

また、区民編集員を養成しマガジンに執筆した記事を掲載。

【経緯】

○マガジンの発行

発行部数 10,000部/回

配布先 市の公共施設、病院、銀行、スーパー

10月発行 第1号 「きらり」でつながる	五福、砂取、本荘、黒髪、大江
12月発行 第2号 「ほっと」でつながる	向山、城東、白川、帯山、帯山西
1月発行 第3号 「いきいき」でつながる	一新、託麻原、出水南、壺川、春竹
3月発行 第4号 「わくわく」でつながる	慶徳、白山、出水、碩台

○区民編集員養成講座 各4回開催

第1期 8人 平成25年7月9日～7月30日

第2期 12人 平成25年10月26日～11月30日

○区民編集員企画会議

全3回開催 各回3～4人程度の参加

内容 マガジンや区だよりの掲載内容などについて

事業の成果・反響

マガジンの反響

- ・自分の校区が掲載されているマガジンについて提供の要望が多かった
- ・市役所の案内窓口、情報プラザなどは配布状況がよい

○アンケートの結果（3号までの回答数 51人）

面白かった理由、取り上げてほしい内容

- ・懐かしいと思った・地域の行事、歴史を知ることができ面白い・各地域の様々な活動など知らないことを知れてよかった・広く知れ渡ってなくても地域で楽しい面白い取組みをされている個人や団体の活動・若い人の取組みを取り上げてほしい・NPOやまちづくりをしている団体を取り上げてほしい

○配布状況について

（聞き取り調査 一部）

全体として

- ・待ち時間等に閲覧していく人が多い・高齢の方、若いお母さん層で持ち帰りが多い
- （銀行 閲覧が多い、パレア 配布状況良い、メガネのヨネザワ 待ち時間での閲覧が多い）

○区民編集員について

平成26年度については、区民編集員には区だよりの制作に携わってもらう。

① みんなのまちづくり情報発信事業

○区民編集員養成講座（1期生 平成25年7月9日～7月30日）



区民編集員養成講座（1期生）

編集・取材についての講座

各自製作している町内会だよりなどについて講師からアドバイスをもらっている。



区民編集員養成取材風景

マガジン1号の「知ってる、中央区探訪」で中央区の記念館（ジェーンズ邸、徳富記念園、リデル、ライト）を取材。

○区民編集員養成講座（2期生 平成25年10月26日～11月30日）



区民編集員養成講座（1期生）

撮影の仕方の講座

白川公園でカメラの効果的な使い方などについて研修。



区民編集員養成講座取材風景

マガジン3号の「知ってる、中央区探訪」でパワースポット巡りの取材。場所は、水前寺公園。

○区民編集員企画会議（平成25年度 全3回実施）

区民編集員養成講座終了後、今後、区民編集員としてどのように活動したいや、平成25年度に発刊したマガジン、区だよりについての意見交換を実施。

平成26年度は、区だよりで携わりなどの話をした。

1回目	平成25年12月24日	参加者5人
2回目	平成26年2月17日	〃 4人
3回目	平成26年3月10日	〃 4人



平成25年度事業報告

事業名 ② 中央区、校区カルタ制作事業

事業の概要・経緯

【事業概要】

将来的な「中央区カルタ」制作に向け、各校区ごとの、魅力や自慢を歌いこんだ「校区カルタ」づくりを地域に提案、活動を支援する。平成25年度は下記の5校区で、ワークショップの開催等を実施した。

本荘校区	H25.9.25(水)	高齢者のつどい「いきいきサロン」に、本荘小学校の2年生を招待して、サロンのスタッフも含めた幅広い世代が参加したワークショップ開催(52名参加)。 (H25.11.1(金)の火災により本荘地域コミュニティセンターが臨時休館しているため、現在中断)
出水校区	H25.9.18(水)	出水子どもネットワークイベント部会で、校区カルタづくりに関する意義についてワークショップ開催(7名参加)
	H25.11.21(木)	出水校区カルタ制作第1回ワークショップ開催(44名参加)。読み札案の素材の掘り起こしを行った。
	H26.2.20(木)	出水校区カルタ制作歴史勉強会開催(17名参加)。読み札案の素材掘り起こしのため、地域の歴史について学習。
	H26.3.13(木)	出水校区カルタ制作第2回ワークショップ開催(9名参加)。素材を元に読み札案を作成した。
一新校区	H26.3.1(土)	一新校区カルタ制作第1回ワークショップ開催(11名参加)。読み札案の素材の掘り起こしを行った。
砂取校区	H25.10.24(木)	砂取小学校校長、教諭、校区自治協議会会長と協議し、6年生が読み札案を作成することとなった。
	H26.3.25(火)	第1回砂取校区カルタ制作会議開催。6年生の読み札案を元に、一部加筆修正することで、読み札案を作成。
出水南校区	H26.3.6(木)	出水南小学校教諭、校区自治協議会会長と協議し、来年度6年生が読み札案を作成することとなった。

事業の成果・反響

カルタづくりに取り掛かった校区等の反響等

- ・転勤族が多い地域で、30代から40代の在住歴短い母親たちがワークショップや地域の歴史勉強会に参加したことで、若い世代の方々がこれまで知らなかった地域の魅力を知るきっかけとなった。
- ・校区カルタづくりは、子どもから高齢者まで、幅広い世代が関わりあうことができるツールになり得る。
- ・その制作作業自体がまちづくり活動・地域活動への参加のきっかけとなり、希薄になりがちなコミュニティの活性化につながる。
- ・校区カルタづくりをきっかけに、地域コミュニティ活動の新たな人材を発掘できる可能性がある。
- ・校区の魅力や自慢を考える中で、改めて地域を振り返るきっかけとなった。

「校区カルタ」制作事例 ①本荘校区

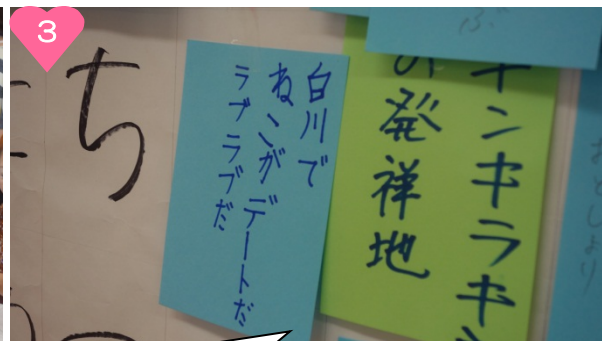
H25.9.25（水）高齢者のつどい「いきいきサロン」に、本荘小学校の2年生を招待して、サロンのスタッフも含めた幅広い世代がワークショップに参加しました。（52名参加）



1学期の生活科の授業でまち歩きを行い、子どもたちが探しだしてきた「地域の宝」をみんなに紹介、それをもとに大人たちと一緒に読み札案を考えていきました。



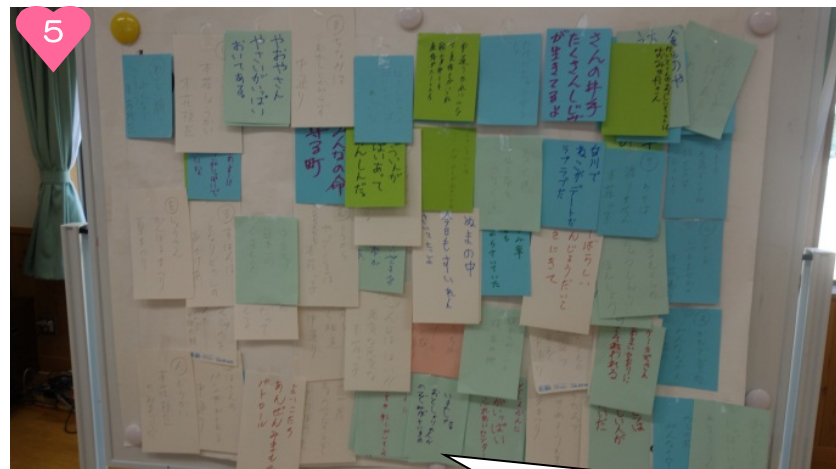
みんなで話し合いながら考えていくと、いろいろなアイデアが出てきました。



子どもたちのユニークな視点から作っていくと可愛い読み札案もできました。長く本荘校区に住んでいる方が校区の昔の話を子どもたちに伝えて、できた読み札案も。



できた読み札案を「あ」から「ん」まで、合計46文字分を貼り付けていくと・・・



1時間の作業で、あっという間に全部の文字の読み札案ができあがりました。

「校区カルタ」制作事例 ②出水校区

各町内自治会長から推薦された、若い母親で構成された出水子どもネットワークのイベント部会の行事の一つに「校区カルタ」づくりを位置づけ、H25.11.21（木）幅広い世代がワークショップに参加しました。（44名参加）



3つのグループに分かれ、自宅や行ったことのある場所に青いシールを貼り、付箋に名称を記入、場所毎に、何をしたか、どんな思い出があるのか、行動をグループ毎に話し合いながら、付箋に記入していき



いくつかピックアップした場所と行動をみんなに発表し、校区カルタの読み札案の素材となりそうな例をいくつか紹介し、各グループから意見や場所、行動に関連することを聴取、意見交換しました。



H26.2.20（木）読み札案の素材掘り起こしのため、熊本地名研究会の福田氏を講師に招き、出水校区カルタ制作歴史勉強会開催しました。（17名参加）



H26.3.13（木）には、出水校区カルタ制作第2回ワークショップ開催し、これまでの作業で掘り起こした素材を元に読み札案の一部を作成しました。（9名参加）

平成25年度事業報告

事業名 ③ 体験型防災イベント「ぼうさい忍者」

事業の概要・経緯

日頃から災害に対する備えを心がけるためには、より一層の啓発活動を行う必要がある。そこで、子どもたちが、もしもの時の防災・減災に役立つ行動や知識を楽しみながら身に付けることができるよう、子どもたちが親しみやすい忍者修行のかたちで親子で参加できる体験型のイベントを実施したものの。

実施日 平成25年11月24日(日) 午前10時～午後3時

場 所 白川公園及び熊本市中央公民館

参加者 184名

内 容 1 一般参加メニュー ※インフォメーションにて説明

(1) ぼうさい忍者はじまりの巻

ぼうさい忍者修行のスタートとして、心構えを学ぶ。

(2) ぼうたい作りの巻

家庭にもあるようなシーツを使って、オリジナルの包帯制作。

(3) 新聞紙でスリッパの巻

がれきを想定して、手軽に手に入る新聞紙で、簡易的なスリッパ制作。

(4) 見える見えるの巻

非常時にメガネがなくなることを想定して、厚紙で簡易メガネ制作。

(5) ケムリから逃げるの巻

煙がどのような仕組みになっているのかについて、実際に無害な煙で模擬体験。

(6) パンダモンの巻

万が一のときに役立つ災害用備蓄食品や緊急告知ラジオなどを展示、説明。

(7) ヒミツ小屋をのぞくの巻

普段見ることがない防災倉庫の中を確認。

2 事前募集メニュー

(1) 家族のぼうさい会議

中央公民館の中で、災害時に何が必要なのかを学ぶため家族で考える体験。

「家族のぼうさい心絵巻」に記入して、意識を共有。

(2) スーパー忍者修行

災害時にどういったことが必要か、修行という形で実践。

「サバイバルメシタキ」と題し、身の回りにあるものを使ってのご飯炊き体験。

事業の成果・反響

・スタンプラリー形式で行ったことにより、子どもたちが興味をもって参加することができた。

・事業の実施状況について、子ども新聞に掲載するとともに、シティエフエムで子どもたちの生の声(感想)を放送することで、常日頃からの防災の必要について啓発を図ることができた。

・「家族のぼうさい会議」においては、家族間で話し合っって非常時の連絡先を作成するなど、親子で防災時の対応について再確認することができたとの声も多かった。

③ 体験型防災イベント「ぼうさい忍者」

＜ぼうさい作りの巻＞



シートでオリジナル包帯制作

＜見える見えるの巻＞



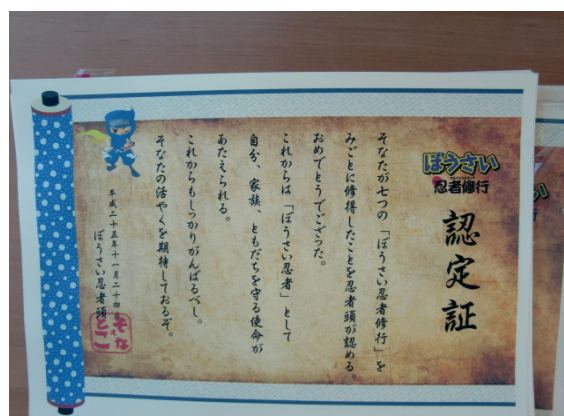
非常時用に厚紙で簡易メガネ制作

＜ケムリから逃げるの巻＞



無害な煙で模擬体験

＜認定証＞



七つの修行体験者に贈られる認定証

＜家族のぼうさい会議＞



家族で災害時の対応を考える体験型会議

＜防災忍者修行＞



身の回りにあるものを使ってのご飯炊き体験

ぼうさい

にんじやひゅぎょう

忍者修行

★ぼうさい忍者修行とは

「忍たま乱太郎」「NARUTO」でおなじみ、みんなが大好きな忍者。忍者は、わざ・道具をつかって、仲間と一緒に、自分の身を守ります。ぼうさい忍者修行では、災害から、自分そして大切な人のいのちを守る修行を行います。

★心構え

- その一 まずは楽しみながら、体験するでござる
- その二 思いっきり考え、感じ、行動するでござる
- その三 地震や大雨などの災害をイメージするでござる
- その四 家や学校、通学路を見直すでござる
- その五 まわりの人にたくさん話して教えるでござる



11月24日(日曜日)

10:00~15:00

場所／白川公園

雨天時：中央公民館

ぼうさいの術



1 ぼうさい忍者はじまりの巻

災害とは何か？どんなキケンがあるのか。まずは災害について学びます。



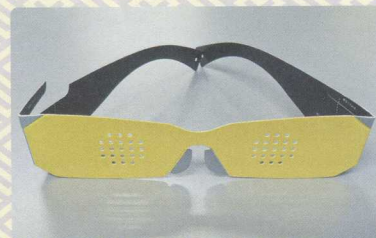
2 ほうたい作りの巻

おうちにもあるようなシートを使って、オリジナルほうたいを作ります。



3 新聞紙でスリッパの巻

がれきの中でも安心ながんじょうなスリッパを新聞紙で作ります。



4 見える見えるの巻

ぼやっとした世界がキレイに見えるようになる不思議なメガネを作ります。



5 ケムリから逃げるの巻

実際のケムリの流れを感じ、逃げる方法を学びます。



6 パンダモンの巻

もしもの時に役立つオスメグッズの紹介をします。

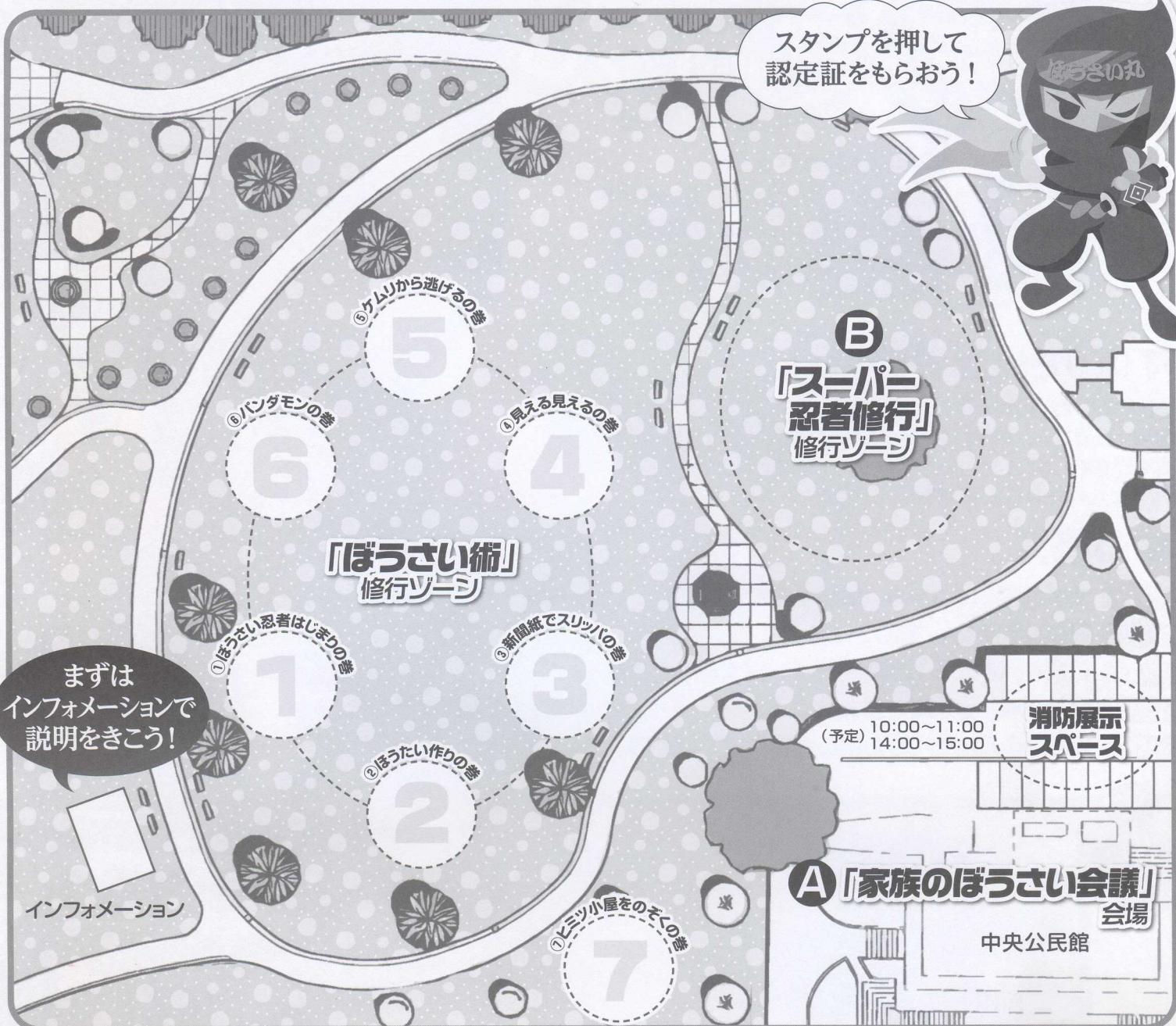


7 ヒミツ小屋をのぞくの巻

普段見られない場所を開放します。

スタンプラリーマップ

スタンプラリーを終えた人には、ステキな
ぼうさいグッズが当たる抽選会があります！



事前募集

A 家族のぼうさい会議

人数	15組	内容	もしも災害が起こったら、家族はどこに集合するか、 もしものために何を準備した方がいいのかなど、 家族みんなで考えるワークショップ形式です。
対象	家族	認定証	家族のぼうさい心得巻物
時間	10:30～ 90分程度		

「家族のぼうさい
心得巻物」作成

B スーパー忍者修行

※午前中に「ぼうさい術」修行ゾーンを終了し参加しよう。

人数	30名	内容	観る修行・聴く修行・サバイバルメシタキ ※アルミ缶と牛乳パックでご飯炊き
対象	小学生 ※保護者同伴が基本	認定証	修行を無事修了した人には、スーパー忍者バッジを進呈
時間	13:00～ 90分程度		

希望者は、住所、氏名、学年、連絡先、家族のぼうさい会議またはスーパー忍者修行を明記の上

〒860-0804 熊本市中央区辛島町8-23 (株)熊本シティエフエム まで、郵送もしくはFAX (096-323-6622) でお申込みください。

応募者多数の場合は抽選となります。応募は11/15(金)必着で、当選された方は、11/18(月)までに、こちらから連絡します。

※中央公民館の駐車場は利用できませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催／熊本市

お問い合わせ／中央区役所総務企画課 TEL.096-328-2610

平成25年度事業報告

事業名 ④ 中央区シンボルマークの作成

事業の概要・経緯

【事業概要】

中央区まちづくりビジョンをもとに区民との協働によるまちづくりを推進する中、中央区民の一体感を醸成するため、親しみやすい、中央区の特色や個性をイメージさせるシンボルマークを公募をし、その中の作品をシンボルマークとして決定。

【経緯】

・公募を実施 平成25年5月1日～6月28日

市政だより、チラシ、区ホームページ、雑誌「公募ガイド」(7月号)などで、作品を募集。応募作品は、186名、298点。

・一次審査の実施 平成25年7月26日

選定委員会(熊大松永准教授、熊本市現代美術館岩崎学芸員、中央区長の3人の審査員及びアドバイザー中川デザイン室)により、5作品を選出

・中央区民投票の実施 平成25年8月23日～平成25年9月20日

中央区民による1人1作品への投票。中央区役所、中央区内のまちづくり交流室及び熊本市現代美術館に設置した投票箱、ホームページ、はがき、ファックス、Eメールで投票

投票総数745票のうち、351票を獲得した上の作品を最優秀賞とし、中央区のシンボルマークと決定

事業の成果・反響

○シンボルマークのPRとして下記のグッズを作成

クリアファイル 1000枚

コースター 600個

ブックマーク 300個

公用車両用PRマグネット 32枚

※PRグッズは、中央区健康のつどい、中央区校区連絡会議、中央区社会協議会の研修等で配布

④ 中央区シンボルマークの作成



(写真左から、クリアファイル、ブックマーク、コースター)

平成25年度地域版ハザードマップ進捗状況（実績）

	自治会数	平成25年度実績（自治会数）			
		目標数	申請数	企画会議 実施数	ワークショップ 実施数
中央区	242	48	40	20	18

○ 地域版ハザードマップワークショップの様子（一新校区第11・12町内自治会）

期 日：平成25年6月23日9時50分～15時00分

場 所：段山八幡宮

参加者：（地域）第11町内自治会 田代会長、第12町内自治会 植野会長 他27名

（アドバイザー）岡 裕二 氏

（行政他）危機管理総室4名、区役所2名、熊本大学教授4名、学生2名

10:00ー 勉強会開催 岡氏コーディネートののもと



- ・住民より昭和28年の6・26水害を昭和32年7・26水害の過去の体験談。
- ・河川に関する用語説明（外水氾濫、内水氾濫等）
- ・昨年7・12九州北部豪雨の降り始めから4時間で約400ミリ、白川の水位の説明
- ・『わが家の防災マニュアル』の説明（白川系と井芹川・坪井川系の水害ハザードマップ見方）
- ・大潮時の水害はひどくなる傾向や駕町通りから下通ダイエーの高低差が2.5mもあることの紹介
- ・避難準備、勧告、指示の違い
- ・水の確保（大人1人1日1.5ℓ必要）や昼夜で人口数が違う。
- ・災害時要援護者（高齢者・障害者以外にも乳幼児や妊娠5ヶ月以上の妊婦も）
- ・地域指定一時避難場所の必要性←自助・共助（大規模災害時は市は72時間動けないこともある）
- ・ハンドレベルの使い方の説明
- ・まち歩き時のポイント説明（浸水箇所、用水路、側溝、ふたが開きそうなマンホール、土砂災害のおそれのある場所、堤防の高さ、消火栓等は特に注意）

11:00ー 1～3班ルートに分かれて、まち歩き

市職員：測量棒・記録係

地 元：ハンドレベル・デジカメ・記録係

- ・マンホール等の危険箇所や道路上の消火栓のチェック
- ・ブロック塀の倒壊のおそれがある場所確認
- ・一時避難場所の確認（外付けの階段のある3階建以上のビル等）
- ・測量棒とハンドレベルを使い、白地図上の標高の基点から大体の高低差を測り、地図に記録





13:30-15:00

ハザードマップの作成（1～3班に分かれて作業）

- ・白地図（A1サイズ）の上に透明シートを敷き、
- 透明シート①に道路（茶色、ピンク）等地域の基礎情報を色付け、標高を追加記入
- 透明シート②にアイコンを貼付（危険箇所・マンホール・消火栓・一時避難場所）
- 透明シート③に危険箇所写真・コメント
- 透明シート④に災害時用援護者（高齢・障がいのある方・妊婦・乳幼児等）のアイコンを貼付、自治会長等の役員が所持する等マップの活用方法を説明
- 各班より1名、学生より今回の作業の感想公表後、終了。



熊本市一新校区第11・12町内防災図

作成:平成26年4月



平成 25 年度「中央区健康まちづくり」取り組み報告

中央区管内 19 校区すべてで自治協議会等を基盤に、既存のネットワークや組織を中心に活動を展開した。

校区イベントでの健康まちづくり活動

校区においては地元のイベントで「健康まちづくり」の周知や健康に関するアンケートを行い、後日その結果を校区に返し、校区住民に「健康まちづくり」を考えてもらうきっかけとした。

今年度 1 月末までに実施した会議やワークショップは 121 回、健康講座や啓発イベントは 80 回

① 春竹夏祭り

健康相談コーナーで血圧測定



② 白川校区運動会

体脂肪測定で比較的若い男性の関心を得た



(校区ボランティアとの連携)

「健康相談コーナー」では地元のボランティアとともに活動したところもある。

「食生活改善推進員」・「8020 推進員」に加え「けんつく会」や地元の医療系の学校の協力も得た。

「けんつく会（健康をつくるボランティア医師の会）」は「地域に出向き住民の健康づくりを支援したい」という 16 名の医師のグループで昨年 7 月に発会した。

③ 春竹夏祭り



④ 向山防災避難訓練と健康フェスタ



「食生活改善推進員」や「8020 推進員」にあっては、自らが企画して地元の「健康まちづくり」を盛り上げて行ったところもある。

⑤ 大江えのきまつり

食生活改善推進員が食品のバランスについて説明



(健康サポーター育成研修会)

校区の「食生活改善推進員」や「8020 推進員」、地元の高齢者サロン等で活動される「介護予防サポーター」が一堂に会した「健康サポーター育成研修会」を実施。

⑦ 健康サポーター育成研修会

小学校区ごとにボランティアが集まり情報交換



⑥ 白山小学校フッ素洗口

8020 推進員が子供の正確安全な洗口を見守る



(中央区役所各課の協力)

昨年度の「健康相談コーナー」ではスタッフ不足から健康チェックの実施で手一杯であったが、今年度は区役所全課から交替で職員の応援があり、住民の声も聞けてコーナーの運営もスムーズであった。

応援課	期日	イベント	期日	イベント	期日	イベント
まちづくり推進課	7/27 (土)	本荘校区夏祭り	10/6 (日)	向山校区 ふれあい町内体育祭	12/1 (日)	白川小バザー
総務企画課	8/24 (土)	春竹校区ふれあいフェスタ 夏祭り	10/14 (月・祝)	出水校区運動会	3/9 (日)	砂取校区砂取まつり
区民課	9/22 (日)	大江小バザー保健相談・ お口の健康教室	10/20 (日)	白川校区体育祭	11/9 (土)	託麻原小バザー
福祉課	9/29 (日)	向山校区防災・ 健康フェスタ	10/26 (土)	壺川校区 ふれあい文化祭	11/23 (土)	砂取歩いとランド
保護課	10/6 (日)	白山 2 町内まつり	10/27 (日)	帯西まつり	11/2 (土)	帯山中学校バザー
中央税務課	10/5 (土)	砂取小 PTA バザー	11/10 (日)	五福校区 風流街浪漫フェスタ		

⑧ 本荘夏まつり
アンケート・クイズに誘導



⑨ 白山2町内みんなこいこいフェスタ
健康クイズを出題



⑩ 砂取小PTAバザー
地域役員と一緒にコーナー設営も



健康まちづくりブロック会議

今年度初めて「健康まちづくりブロック会議」を実施

管内の「まちづくり交流室」を4つのブロックに分け、校区の代表者（自治協議会会長、社会福祉協議会会長、民生児童委員協議会会長など）が集まり互いの活動について情報交換を行った。

「他校区の活動が知れて良かった」「刺激になった」というような声も聞かれ、8月に行われた市全体の「健康まちづくり活動研修会」で中央区の代表校区として発表する代表者の選出も行われた。

⑪ 大江まちづくり交流室南ブロック会議



今年度も既存のネットワークや組織を中心に活動を展開してきたが、地元の組織同士の連携強化の声が上がって新たに健康づくりの組織が立ち上がった校区もあった。

健康まちづくり活動研修会

H25.8.10

中央区の健康まちづくりの目標：地域の行事や活動をととして、子どもから若い世代、高齢者までの健康課題を共有し、地域や人のつながりを大切にするまちをつくる。

幸山市長の挨拶

中央区の活動報告後に中央区代表として白山校区の社会福祉協議会会長 大久保さんに発表していただきました。

もう少しつながりをもって、地域全体で活動できることはないだろうか…？

「健康」は、全世代・全住民に関係すること。
「健康づくり」という共通話題・活動でつながれないか！？

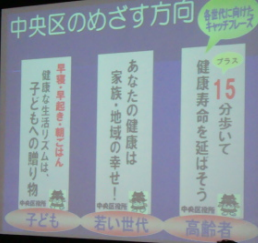


順天堂大学の湯浅教授の講演より…

- 「健康まちづくり」を継続化するには、
- ①住民主役の活動を支援する推進員を養成します。
 - ②ネットワークを強化し新陳代謝を促します。
 - ③結果を可視化させる評価を実施します。

健康と幸福になることを最優先した住民・行政・民間による協働活動を「健康まちづくり」と言います。

19校区の活動状況をパネルにして展示しました。



各世代に向けてのキャッチフレーズを「のぼり旗」にしました。
地域のイベントには必ず持参し、健康まちづくりをビジュアルしました。

開業医の先生方を中心とした「健康まちづくり」の支援団体、健康を作るボランティア医師の会「けんつく」会が発足しました。

中央区の広報について



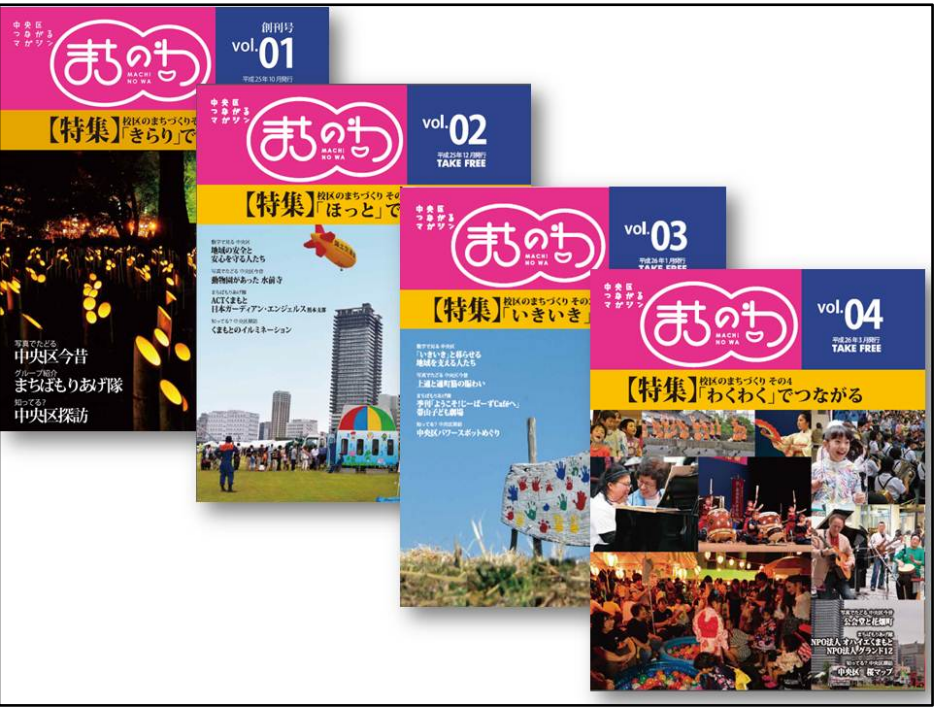
【市政だより】

市政だよりの中で、毎月 1 ページ、中央区のページで中央区民対象の行政情報や、「中央区ニュース」としてまちづくり活動などを紹介。また紙面の下段で、中央区内の歴史や遺跡などを紹介する連載記事を掲載。



【中央区だより】

平成 25 年度は、10 月と 3 月の年 2 回発行 19 校区のまちづくり活動を写真と説明で紹介、町内回覧で配布。
平成 26 年度は、中央区内全世帯配布。6 月、10 月に発行予定。



【中央区つながるマガジン】

平成 25 年度は、中央区つながるマガジン「まちのわ」1 号～4 号を発行。まちづくりに関心をもってもらうため、市の施設のほか、書店、駐車場、スーパーなどに設置。平成 25 年度は区民編集員養成を実施し、編集員が一部記事を執筆。平成 26 年度は、2 回発行予定。



【中央区ホームページ】

中央区役所からの行政情報、まちづくり懇話会の開催状況などを掲載。下段のトピックスで「校区単位のまちづくりレポート」など地域の活動を掲載。



【中央区役所フェイスブックページ】

中央区フェイスブックページでは、校区・地域の活動や、中央区内の市民団体のまちづくり活動や、イベントなどを紹介。

